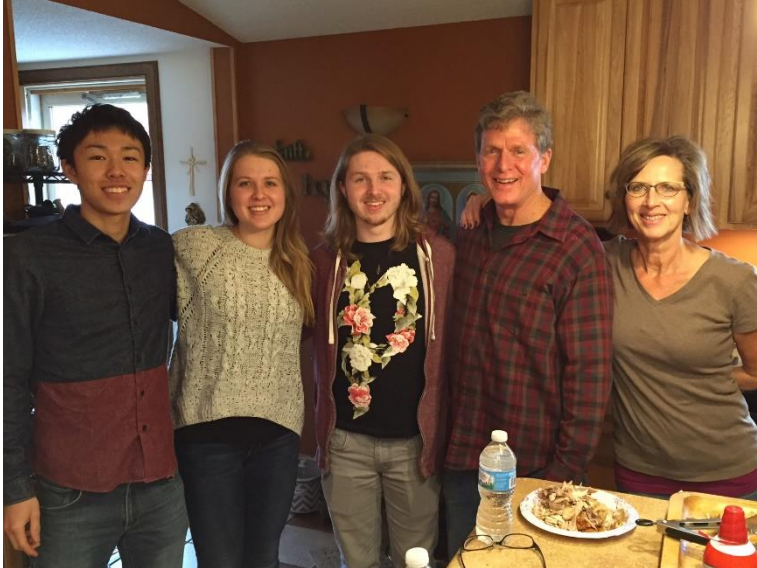


## 充実した一か月

### ● Thanks giving



Sam の家族と記念写真

アメリカには、サンクスギビングという休日があります。アメリカ人にとって大切な休日の一つで、家族と一緒に料理を食べます。必ずどの家庭もターキーを食べます。これは、もともとイギリスにいた清教徒がアメリカに住み始め、住むための手伝いをしてくれたネイティブアメリカンをパーティーに誘い、感謝の気持ちを込めてターキー

を送ったことが始まりです。

私は、友達の Sam の家へ行き、たくさんごちそうになりました。あまりにもおいしかったので、食べ過ぎてしまいました。一番おいしかったのはターキーでした。特に皮の部分がおいしかったです。写真にもありますが、大きなターキーを買って食べます。サンクスギビングで作ったり買ったりしたものは、わざと多めに用意して何日かに分けて食べるそうです。それぞれの家庭では、お母さん方は前日から長い時間をかけて料理を作り、大切な家族と一緒に過ごす大切な日の準備をするそうで、日本でいう正月に似ているなと私は思いました。Sam と彼の温かい家族に囲まれながら過ごした時間は、幸せな時間でした。

二日間という限られた時間で、アメリカで三番目に大きな都市・シカゴ（イリノイ州）に行ってきました。ウィルソントワーやメディヴァルタイムス、ジョンハンコックセンター、シカゴ美術館、フィールド自然史博物館へ行ってきました。

ジョンハンコックセンターでは高所からの美しい夜景を見ることができました。日本では見られない、道がまっすぐな、きれいな夜景でした。シカゴ美術館はアメリカ



ジョンハンコックセンターからの夜景

で五本の指に入る美術館です。芸術のことはさっぱりわかりませんが、展示品を見ていると大昔の人とつながるような感覚があり、不思議な気持ちになりました。主にギリシャの展示物を見ましたが、祝いの場を表現した絵の中でさえ人物に笑顔がないことが印象的でした。このほか、上半身が人間で下半身が動物というケンタウロスの絵などを見て、ギリシャの歴史に興味を持ちました。フィールド自然史博物館は、日本の国立科学博物館のようでした。特に興味をそそられたのはエジプト文明です。ミイラや棺を見ると、別世界にいるような気がしました。もし行く機会がありましたら、美術館と博物館をそれぞれ一日ずつかけて見ることをお勧めします。

## ● Nissin Brake Ohio

私は現在、トラブルシューターという仕事をしています。社内の製造現場の現状を把握し、問題点を自分たちなりに探し、どのように問題を解決していくかを考え、コストを考慮し、良い案と認められれば行動に移ります。先日、キャスティング担当のエンジニアに私たちの対策案をプレゼンテーション形式で発表しました。発表が終わると、「もっとこうしたらいいのではないか」、「この案は現状ではできない」などの意見をいただきました。アメリカ人の社員の方々に私のアイデアを英語で伝えられたことと英語で議論ができたことは、私にとって良い経験になり、自信にもなりました。その後、実現可能な案はすぐに取り掛かり始めました。現在二つのプロジェクト進行中です。一つ目は、キャスティングで生成されてしまう酸化物をどのようにして簡単に掃除するか。二つ目は、溶かされたアルミニウムを金型へ運ぶレードルの形状とコーティングの変更です。

酸化物を減らすための対策は二十年以上うまくいっていません。そのため、まずは、酸化物の生成量を減らすというよりは除去作業をできるだけ簡単にする案を考えました。よく生成される箇所の下にシートを設置し、シートを取り除くだけで除去ができるという案です。現場の作業員の仕事が増えないよう、できるだけ簡単に取り付けられる材料や取付方法を考えているところです。

もう一つの対策案は、レードルにコーティング処理を施し、酸化物の付着を防止するものです。そして、酸化物がレードルに残らないような形状の検討をこれから行っていくつもりです。

NBOには主体的に仕事をさせていただいているので、これらの対策案を実現し、問題解決できるように頑張っていきたいと思います。